



ボッチャ体験会の様子（8月1日、順慶寺本堂にて）

◆◆ ボッチャ体験会 ◆◆

8月のこども会は、刈谷市社会福祉協議会の職員の皆様のご協力のもと、ボッチャ体験会を開催した。ボッチャは、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、一緒に楽しめるスポーツ。当日は子ども達が力を合わせたり競ったりしながら、笑顔あふれるひとときを過ごした。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2026年（令和8年）

9月号

VOL. 395

◇ 怒りが新たな悪業を生む ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』の一節によるものです。

「こみあげてくる怒りを

暴走する車を御するように抑えられる人

その人こそ、まことの『御者』であり、

それ以外の人は、

ただ『手綱を握る人』にすぎない。」

（第三二偈）

今月は、この教えをもとにしています。

日々の暮らしの中で、理不尽な悪口や批判を聞くと、怒りが湧いてくるのは自然なことですが、とりわけ陰口は、小声で交わされていて、つい耳を傾けてしまいます。たとえ口には出さなくても、その怒りを心の中で何度も繰り返してしまふことは、誰にでもあるのではないのでしょうか。

今月の出典には、ある女神の娘が、ある比丘の行為によって傷つけられたという物語が記されています。女神は「この比丘には戒がある。殺せば私が地獄に堕ちる。私が手を下さなくて



今月の釈尊の言葉

こみあげてくる怒りを
暴走する車を御するように
制する人を御者と呼ぶ

『ダンマパダ』
第222偈より



若院のテーマカット NO.86



も、同じ苦しみを受けた誰かが、この比丘を殺すだろう」と考えました。そして、振り上げた手を下ろし、釈尊のもとへ走りしました。すると釈尊は「あなたは立派です」と称え、先の言葉を授けられたと伝えられています。

釈尊が讃えられたのは、怒りが起こらなかつたからではありません。怒りに任せて行動するのではなく、一度立ち止まり、自らの手を下ろしたことにこそ、その尊さがありました。

どのような事情があっても、怒りを抑えて次の行動に移さなければ、新たな悪業は生まれません。釈尊は、その大切さを説かれました。

◇わが身を案じる人をもつ幸せ◇

私たちは毎日の暮らしの中で、人間関係や仕事、家庭など、さまざまな場面で思いどおりにならない出来事に出会います。ほんの些細な一言でも心が傷つき、気づけば怒りや苛立ちが込み上げてくることは、決して珍しいことではありません。怒りは悪い人だけに起こるものではなく、誰もが持っている自然な心の働きです。そして多くの場合、その怒りは最も身近で大切な人に向いてしまうことさえあります。

私たちが自分の心を思いどおりに制することは難しく、怒りを抑えることも簡単ではありません。それでも仏教では、怒りが起こったときに適切に向き合う方法、いわばアンガーマネジメントを身につけることはできると教えています。

①【悪業】

悪しき業。苦しみを招く悪い行為。黒業や不善業ともいう。一般的に、悪業には一般に二〇種が知られている。これらをなすことで衆生は悪趣に墮ちるとされる。浄土宗においては、悪業をなせば悪趣に墮ちるところを、阿弥陀仏の本願を深く信じ、念仏を称えることで極楽に往生できると説く。

(web版浄土宗大辞典より)

②【アンガーマネジメント】

怒りが生じたら、まず「自分はいま怒っている」と気づくことが大切です。そして、その怒りを岩や土に刻むように残すのではなく、「水に文字を書くように消しなさい」と教えられています。水面の文字がすぐ消えるように、怒りも長く心に留めないということです。腹が立った出来事を何度も思い返していると、そのたびに怒りはよみがえり、自分自身の心を苦しめてしまいます。怒りは相手だけでなく、自分をも傷つける感情であることを忘れてはなりません。

私たちは、自分を思いどおりに律することが難しい、煩惱の深い凡夫です。自分だけの力で抱え込むと、かえって怒りが増すこともあります。そんなときは、自分を案じてくださる方を思い浮かべることで、怒りの心も少しやわらぐのではないのでしょうか。

アンガーマネジメントとは、怒りを予防し制御するための心理療法、プログラムである。怒りはしばしばフラストレーションの結果であり、また自分にとって大事なものを遮断されたり妨害された時の感情でもある。怒りはまた、根底にある恐れや脆弱感に対する防衛機制でもあるとされる。

(ウィキペディアより)



正信偈の節の音は少しふしぎな感じがしますね。この節は、昔から伝わってきたものなのではないでしょうか。

じゃんこちゃん、正信偈の節を覚えたんですね。よくがんばりましたね。

正信偈のことは親鸞聖人がつくられ、あとから蓮如上人が節をつけたと言われています。ただ、東本願寺と西本願寺では、節の高さやリズムが少し違います。東本願寺の節に慣れている人が西本願寺のおつとめを聞くと、歌のように聞こえて、少し物足りなく感じる場合があります。反対に、西本

願寺の節に慣れている人が東本願寺のおつとめを聞くと、声を大きく出しているように聞こえることがあります。どちらの節も、子どもたちから何度も聞いているうちに、自然と覚えていくのでしょうか。

ふだんの正信偈は、「草四句目下」という、軽く唱えやすい節でおつとめします。「草」とは、やわらかく略した読み方のことです。ところが、報恩講のような特別なときには、「真四句目下」という、ていねいで重みのある節で唱えます。「真」とは、いちばんきちんとした読み方のことです。真四句目下は長くて音も高いので、少し大変ですが、書道でまず楷書から練習するように、正信偈もこの節で習うと、基本がしっかり身につくと言われています。

じゃんこちゃんもがんばって報恩講のお勤めを習いましょう。

お寺とともに

「お盆を 終えて」



今年もあつという間にお盆を迎え、無事に勤めを終えることができました。

厳しい猛暑の中でも、瑞々しいお花を手にお墓参りに集まれる皆さまの姿には、毎年頭が下がります。やがてお墓には整然と色とりどりの花々が立ち並び、見事な光景となります。そこには、ご先祖を思い、今あるご縁を大切にしようとする皆さまの温かな心が表れているように感じます。暑さの中での参りは決します。暑さの中ではありますが、毎年変わらず足を運んでくださることをありがたく思います。

年々、夏の暑さは地球規模で深刻さを増していますが、来年もどうか無事にこの光景が続きますようにと願わずにはいられません。

日常に戻った今、いつものお墓の風景の中で少し安堵しながら行う作業にも、心を込めようと背中を押していただいています。

若院の 成長日記

Growth Diary

みなさまは、お盆をどのように過ごされたでしょうか。ニュースでは、おじちゃんやおばあちゃんのもとへ帰省する人々の様子が盛んに報道されていました。私の友人たちも実家のあそび場へ戻ってきていました。お盆をどう過ごしたのか尋ねると、「〇〇

《第七七回 盆休み》

へ観光に行った」など、楽しそうなお話を聞かせてくれます。その一方で、「お墓参りには行つた」と尋ねると、「面倒だから行つてない」という返事もありました。お盆をご縁に手を合やす習慣が薄れているように感じています。

順慶寺執事

祠堂新規上納者並びに俱会一処該当事
法名並びに名簿一覽

来たる九月二十六日(土)に、順慶寺において、秋季永代経が開催されます。過去五十年間に祠堂金をあげて下さった方々への法要です。また、当日令和八年に五十回忌を迎えられ、当山の納骨堂に納骨された方々の俱会一処も行います。

昨年度(令和七年九月~令和八年八月)までに新たに祠堂金を順慶寺にお上げくださり、お紐解き法要(祠堂開き)を執行させていただいた方々(または執行予定の方も含む)は以下の通りです。

新規祠堂上納者一覽(敬称略)

- 為 浄惠院釋尼名聞 塚本喜久子
願主 塚本秀樹(今川西組)
- 為 素淳院釋尼妙直 岡本直子
願主 岡本直樹(今川西組)
- 為 報恩院釋尼妙正 岡本正枝
願主 岡本巧(市場下組)
- 為 貞志院釋尼梅香 酒井うめ子
願主 酒井和行(一里山組)

注 祠堂金は、三分の二を順慶寺什物拡充などに充て、三分の一を護寺会金として、護寺会会計に積立をさせていただいています。

以下は、本年五十回忌(昭和52年没で俱会一処を迎えられた方の中で当山納骨堂で納骨が確認された方々です。

俱会一処該当事(敬称略)

1月19日	佐野長蔵	佐野英二の父
1月25日	濱島森吉	濱島善一の父
2月14日	池田クラ	池田末雄の母
2月24日	池田す志	池田鑑二の母
4月1日	横山キン	横山秋夫の母
4月14日	都築繁一	都築敏男の父
4月19日	池田ぎん	池田経義の妻
5月16日	岡本すわ	岡本秋雄の母
5月25日	池田ろく	池田守男の母
7月10日	岡本光義	岡本日出子の父
8月7日	石川源五郎	石川隆次の父
8月9日	田中仁一	田中藤巳の父
8月30日	志水とよ	志水満の母
8月31日	鈴木志やう	鈴木式郎の母
9月15日	石川博樹	石川隆次の孫
9月19日	岡本愛市	岡本廣の父
9月22日	佐野末秋	佐野博の父
10月6日	岡本濱吉	岡本義治の父
11月14日	古野了	古野キヌ子の夫
11月24日	志水和好	志水満の父
12月21日	杉浦きく	杉浦三雄の母
以上21名		

今年も盆会を迎える

去る8月1日、順慶寺本堂にて盆会が開催されました。夏盛りの厳しい暑さの一日でありましたが、約五十名ほどの参詣をいただきました。お盆というご縁をいただき、亡き人を偲びながら勤まつた盆会でした。焼香の香りに包まれつつ、亡き方とのご縁を振り返り、仏様のお心をいただく心静かなひとときとなりました。お勤めの後は三浦真教氏のご法話をいただき、休憩中には住職による順慶寺宝物の説明がありました。宝物の説明では、普段は本堂で目にするこない品々について、住職からその由来や歴史などが紹介されました。



焼香の様子 撮影：岡本太

8月度護寺会物故者(敬称略)

釋識雅

8月9日寂 太田雅信(72)
名古屋市 太田礼子様の夫

称松院釋尼洋華

8月10日寂 佐野洋子(92)
安城市 佐野隆弘様の母

了温院釋尼明香

8月13日寂 岡本明子(83)
市場上組 岡本博文様の母

誠実院釋久照

8月25日寂 森 久夫(74)
刈谷市 森一弘様の父

太鼓の会
「和太鼓 慶」と決定!

先月号で特集しました太鼓の会ですが、8月24日の練習をもって、「和太鼓 慶」と命名されました。順慶寺の「慶」の字であるとともに

に、「よろこび」を表す言葉でもあります。太鼓を奏でる人だけでなく、聴く人も巻き込みながら、喜びの世界を表現し、分かち合いたいという思いが込められています。今後の活躍に、ぜひご期待ください。

編集部短信

◆惣骨塔個別区画増築決定!! さる8月24日、臨時墓地管理委員会が開かれ、惣骨塔の個別区画の増築が決定されました。10月末をめどに48基の増築を予定しています。

◆境内ミスト設置を延長!! 9月も猛暑が予想されます。8月まで設置予定のミストでしたが、お彼岸まで設置を延長します。ひとときの涼を感じながら、どうぞごゆっくりお参りください。

編集雑記

〆〆の赤根所長に制裁が科されたというニュースに衝撃を受けました。多くの過ちを経てようやく築かれた国際司法も、権力によって抑え込まれてしまうのでしょうか。これから私たちは、権力に付度して生きるしかないのかと胸が締め付けられる思いです。(住)

最近外で運動する機会が増えました。あまりに暑いので、頑張りすぎないようにしたいと思います。(若)



9月の主な行事予定

日曜	行事内容	掃除当番
1 火	寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
2 水		
3 木		木-1
4 金		
5 土		
6 日	祠堂法要事前連絡会(19:00～、順慶寺玄関)	
7 月	お楽しみ会(14:00～、順慶寺本堂)	
8 火		
9 水		
10 木		木-2
11 金		
12 土		
13 日	真宗講座(14:00～、順慶寺本堂)	
14 月	太鼓練習(19:00～、泉田市民館)	
15 火		

16 水	助音講(16:00～、順慶寺玄関)	
17 木		木-3
18 金		
19 土	順慶寺子ども会(9:00～、順慶寺本堂)	
20 日		
21 月	太鼓練習(19:00～、泉田市民館)	
22 火		
23 水		
24 木	大掃除(8:00～、順慶寺)	木-4
25 金		
26 土	祠堂法要・俱会一処式(下記参照、順慶寺)	
27 日		
28 月	宗祖聖人御命日(7:00～、順慶寺本堂)	
29 火		
30 水		
10/1 木		

9月行事内容 詳細

祠堂法要・俱会一処式

9月26日(土)

午前10時・午後1時 順慶寺本堂

法 話 西尾市安楽寺 伊奈祐諦氏

順慶寺に過去五十年間(昭和51年9月～令和8年8月)に祠堂があがっている方に対する、祠堂法要を厳修いたします。今年度からは暑さも考慮し、例年よりも日にちを遅らせての開催となります。

祠堂の通知のあった方々、また、祠堂のあげていない方でも法話の聴聞を希望される方は、遠慮なくご参詣ください。

同日午後から、今年五十回忌を迎えた方のお骨を納骨堂下に埋骨する俱会一処式も実施いたします。

祠堂法要日程

9月26日(土)午前10時から

会場:順慶寺

○10時から12時 祠堂法要

法話:伊奈祐諦氏(二席)

正午 お斎 庫裏及び書院にて

○13時～15時 俱会一処式、祠堂法要

法話:伊奈祐諦氏(二席)

◎午前9時～10時半まで書院にてお抹茶接待があります。

お知らせ

●本山相続講金(院号法名:収骨料) 改定のお知らせ

来令和9年7月より、東本願寺において院号法名及び収骨料が値上げされることが決定されました。これまで院号法名は8万円、真宗本願(東本願寺)への収骨は12万円でしたが、来年度(令和9年7月)からは、院号法名は10万円、収骨は15万円が必要となります。何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

●太鼓の会メンバー募集中

「和太鼓 慶」は現在、参加メンバーを募集しております。年齢・経験は問いません。太鼓にご興味のある方、やってみたいという熱意のある方は、ぜひご参加ください。9月は14日と21日の19時より、2時間の練習を行います。ご連絡は順慶寺までお願いいたします。

じゅんこのときめき歳時記

鈴虫

9月になったというのに、まだまだ暑い日が続きますね。そんな暑い夕暮れ、散歩をしていますと、どこからともなく「リーン、リーン」と鈴虫の鳴き声が聞こえてきます。晩夏の暑さを忘れさせ、秋の訪れを感じるひとときでした。

鈴虫は野生で暮らす昆虫でありながら、人との距離が近い生き物でもあります。江戸時代には虫籠で飼い、その美しい音色を楽しむ文化が広まりました。現代でも家庭で飼育されることがあり、和歌や俳句、文学の世界では「秋」や「静けさ」、「もの

のあわれ」を象徴する存在として親しまれてきました。

暑さの残る毎日ですが、夕暮れに少し足を止め、家の外から聞こえてくる虫の音に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

鈴虫や 土手の向ふは
相模灘

正岡子規

